

οὐρανός

東北学院大学 広報誌

ウーラノス

特集 NEW WAVE T.G.U.

『大学設置50周年』

対談

『21世紀のコミュニケーション』……………①

大学設置50周年記念事業紹介……………①

「ΟΥΡΑΝΟΣ(ウーラノス)」は、「天」を意味するギリシャ語です。イエス・キリストは「だれでも、わたしの天の父の御心を行う人が、わたしの兄弟、姉妹、また母である(マタイ12:50)」と語っています。この箇所にも οὐρανός が用いられています。



CONTENTS

時代をみる……………
学生たちは、今……………
学長室より……………
大学院より……………
学部より……………
特色ある研究……………
国際交流センターより……………
研究所より……………
図書館より……………
就職部・入試センターより…



21世紀通信

Vol.4

JUNE,2000

大学広報誌『ΟΥΡΑΝΟΣ(ウーラノス)』は、東北学院大学設置50周年を記念して年三回発行されます。2000年度は、東北学院創立114周年、また、大学設置50周年を記念する第二年目の年です。「聖書の示す神に対する畏敬の念とイエス・キリストにならう隣人への愛の精神を培い、世界の文化と福祉に貢献する人材を育成する」という東北学院建学の精神を原点に据え、さらに前進したいと願っております。



21世紀のコミュニケーション

特集 対談



対談者 京極 昭氏 昭和25年に東北学院専門学校英文科を、昭和28年に東北大学英文学科を卒業。(株)河北新報社編集局長、取締役開発局長、常務取締役、専務取締役、河北ビル(株)代表取締役を歴任する。現在、(株)東北ハンドレッド代表取締役社長、学校法人東北学院評議員を務める。

倉松 功 本学学長
司会者 佐々木哲夫 本誌発行小委員会編集長



司会 本日は、京極昭さんをお招きいたしました。

まず始めに、ジャーナリズムとマスメディア、コミュニケーションについてのお話から口火を切っていただきたいと思います。

京極 ジャーナリストとして一番大切なことは、社会にどのような奉仕できるかということです。愛の精神や思いやりがなければ、正義の基準は、はっきりしません。市民の生活を阻害するものを排除するとの熱情を持たなければ、ジャーナリストとしては成り立ちません。東北学院での3年間に、多くの先

生方の人格に触れることによって、愛の精神、奉仕の心を学びました。東北学院で学んだものが私の行動の原点になり、ジャーナリズムの世界での規範になりました。

倉松 正義や思いやりは、聖書の言葉を用いるならば、正義と愛の共存と表現できるかと思います。アウグスティヌスや宗教改革者のルターなどは、正義と公平さと表現してします。我々の生活においても、やはり、それなりの配慮が必要です。愛のない正義は、正義として正当化できないと思います。

京極 正義だけを振りかざすと、社会が非常に歪んだ形になってし

まいます。その意味でも、愛がなければジャーナリズムは、正しい方向に進まないと思います。

官学ではなく、私学でいろいろな方と触れ合い、また、建学の精神に触れることが、ジャーナリストへの決意とつながったと考えております。

倉松 日本の近代化は官中心でしたが、世界の流れは違います。官中心から民中心に移行しています。例えば、アメリカのリンカーン大統領の言葉の「人民の人民による人民のための政治」が制度化され日常化されている時代です。日本でも、京極さんの言われた観点が



特集：東北学院大学設置50周年記念事業紹介

これからの大学設置50周年記念事業

大学設置50周年を迎えたことを機に、昨年と今年の2カ年計画で各種の記念事業の実施を計画しておりましたが、この度、平成12年度に実施する記念事業の実施内容がまとまりましたのでお知らせいたします。

『韓国・平澤(ピョンテック)大学校芸術学部音楽科教授によるコンサート』

日時：平成12年7月8日 10時40分～11時40分

場所：本学泉キャンパス礼拝堂

在学生のご父母を対象として行われる『後援会総会』の大学開放プログラムの一つとして実施いたします。

平澤大学校は本学の国際交流協定校の中の一校で、一昨年も職員研修の目的で、多数の職員の方々が本学を訪れております。

必要だと思えます。

京極 ジャーナリズムに対する評価についても、日本とアメリカでは異なります。第4の権力と言われるジャーナリズムですが、日本は、第4の権力にまで至っていないのが現状です。その原因の一つとして考えられるのが、権力に追従する姿勢が残っていることです。私は、独立した自由な精神で報道をするべきだと長年思ってきました。私の40数年間にわたる河北新報社での歴史は、社会的地位獲得のための闘争でした。非常に低い評価であったジャーナリストが徐々によくなってきた歴史でもあります。

例えば、今日では、ジャーナリストが国や県の様々な委員会の委員を務めるようになりました。私の入社当時では考えられないことです。それだけ社会的な評価あるいは見識が尊重されるようになったということです。



京極 昭氏

倉松 京極さんが論壇に論説などを時々お書きになられていたときの活躍ぶりが印象に残っております。

京極 私のジャーナリスト生活の中で誇りに思うことは、地方紙からの発信で、日本全体に大きな転換をもたらしたキャンペーンが二つあることです。その一つは、遷延性意識障害者への医療の手、愛の手を差し伸べるといふ救済活動が実ったことです。これは、日本新聞協会賞もいただきました。もう一つの協会賞は、私が編集局長時代に「東二番丁通りのほこりがひどくて、仙台に転動してきた私には耐えがたい」という一通の投書がきっかけとなって始められたスパイクタイヤ追放運動です。この運動によってスパイクタイヤ製造が法律で禁止され、全国的にノースパイク社会になりました。

これらのことから、市民と共に生きることが、ジャーナリストの最大の使命ではないかと考えております。

司会 東北学院の卒業生の一人として、また、学校法人東北学院の評議員という立場から、今日の本学に対して、ご意見もしくはご提言をいただければと思います。

京極 私は、いわゆる出世だけが人生ではなく、むしろ隣人愛を大切に、他の人たちと支え合って生きていくことが大切なのではないかと思えます。東北学院の卒業生と接する機会が数多くありますが、彼らが決して出世主義に陥らず、

COLUMN WELL

大好評の史学科公開講座



史学科教員が総力を挙げての公開講座も、今年度で3年目を迎えます。第1回は「日本における東北」、第2回は「アジアにおける日本」というテーマで開催し、多数の参加をいただきました。今年度の第3回は「世界におけるアジア」がテーマです。9月中旬から10月末まで全5回にわたって、一回につき各2名の講師によって、グローバル化が進む中でのアジアの問題をさまざまな角度から取り上げる予定です。

単位互換の実施に向けて

5月8日に、宮城県内の21の大学・短期大学で構成する仙台学長会議において、他大学の科目を履修し、その取得単位を在籍大学の単位として認定する「学都仙台単位互換ネットワーク」の協定書と覚書が承認されました。この制度は、大学間の交流と協力を推進し、大学教育の活性化と充実を図り、意欲ある学生に対して多様な学習機会を提供することを目的とします。今後、各大学で具体的な準備に入り、9月25日の調印を経て、平成13年4月からスタートする予定です。また、可能であれば他県の大学・短期大学との連携も考えております。

『国際シンポジウム』

テーマ：『21世紀のアジアと環境
- 40億人の生命を支える豊饒の大地と危うさ - 』

日時：平成12年10月7日 13時00分～16時40分

場所：本学土樋キャンパス8号館大会議室（建設中）

講演者：高玉 葆氏

南開大学（中国）教授・学長補佐

チャルチャイ タナブット氏

プリンス・オブ・ソクラ（タイ）教授・学長補佐

講演者：鈴木 邦雄氏

横浜国立大学教授・経営学部長

原沢 英夫氏

環境庁国立環境研究所

社会環境システム部環境計画研究室長

石橋 良信

東北学院大学工学部教授

宮城 豊彦

東北学院大学文学部教授





周囲の人間と調和し、愛され、尊敬されて生活している、また、社会的に立派に活動されているのを現実に見ています。東北学院の精神は素晴らしいと思います。

倉松 学院スピリットと表現できるかもしれません。大学にもその精神は現在も続いています。私たちは、本学の建学の精神を本当に大切にしていきたいと思っています。京極 宮城県内の社長の学歴を見ると、東北学院出身者は相当のパーセンテージを占めているのではないのでしょうか。

倉松 宮城県内に限って言えば、全体の27%ほどが本学の出身者です。しかも、成長企業の責任者に東北学院の出身者が多いという統計も出ています。

京極 そういう意味では東北学院の建学の精神や教育方針がすぐれているということですね。ぜひ今までの方針を貫いていただきたい

と思います。

やはり、日本人に欠けているのは、宗教に対する自覚、宗教と対面する姿勢、また、反省や謙虚さ、畏れを知ることだと思います。ヨーロッパの美術館やその建築物を眺めると、ヨーロッパではキリスト教あるいは宗教について生涯対面

し続けていることがわかります。我々日本人の生活の中で、自分が生きるということは何かと考える人は少な過ぎるのではないのでしょうか。宗教的により高いものを求めていくということがなければ、世俗的な風潮に流れてしまい、つまらない世の中になってしまうと思います。そのことを学生時代から学ぶ機会を得たということがとても貴重だったと思います。



倉松 功

倉松 キリスト教の場合は、長い歴史の批判に耐えて、普遍的、倫理的、道徳的な基準を指し示し、人間に自己満足させないで、いつも

何か反省を求めているところがあります。反省を示すあるいは宗教的に悔い改めることが、京極さんの言われた宗教を持つということ。もう一つ上のものを持っているということの宗教的な深みが非常に大切だと思います。

司会 京極さんが代表取締役をされています東北ハンドレッドでの働きは、それまでのご経験とどのような関連があるのでしょうか。

京極 東北ハンドレッドは、プロサッカーチームのベガルタ仙台の運営会社です。設立の経緯は、スポーツを通して、地域の活性化を図り、生活を楽しむことを目的にしています。6年前の設立の際、官界、財界、民間の代表が集まり設立準備委員会をつくりましたが、当時専務取締役をしておりました河北新報社を代表して委員に加わりました。当時からの心配は、資金面で果たして長続きできるのかということでした。その心配が現実となり、設立されてから5年間続けて赤字になっていました。そこで、民間人の手で球団を立て直さなければならぬということで、設立の際に関係していた私が、ボランティアとして無給を条件に引き受けました。幸い私が就任して初年度に黒字に転換しました。県民の税金から球団の赤字を穴埋めすることが避けられたのです。



特集：東北学院大学設置50周年記念事業紹介

これからの大学設置50周年記念事業

『地域連携シンポジウム』

テーマ：『産・官・学の連携と地域との共生をめざして
- 東北学院大学の現在・過去・未来 - 』

日時：平成12年11月18日 13時30分～15時30分

場所：本学土樋キャンパス8号館大会議室(建設中)

講演者：樋口 美智子氏 宮城県環境生活部次長
菊地 忠勝氏 宮城県労働者福祉協議会会長
新川 達郎氏 同志社大学
総合政策科学研究科教授
阿見 孝雄氏 NPO 地域・大学連携機構代表理事
司会：中鉢 憲賢 東北学院大学工学部長

これらの行事の他に、『学生懸賞論文の募集』や『シンボルマークの募集(6月末日をもって募集締切)』を行っており、昨年実施した『UI(University Identity 活動)』と合わせて、学生をはじめ社会のあらゆる要請に応えることができる大学を目指して記念行事の実施を進めていきます。

今後は、早い時期にベガルタ仙台が今のJ2からJ1に昇格し、さらに多くの県民の皆さんに楽しんでもいただけるようにしたいと思います。現在の観客動員数は、全国的に見て、J2の中では第2位の人数で、平均7,500人入っています。J2の平均は約4,000人ですから、観客には恵まれています。

日本のサッカー人口は野球人口を上回っていると言われており、全国でサッカークラブが1万4,000あり、小・中学生では45万人が参加しています。世界的に見ても野球は日本とアメリカが中心ですが、サッカーは世界のほとんどの国で行われています。その意味では国際性があり、21世紀につぶさわしいスポーツだと思います。一つのボールをめぐる選手個人が他の10人の選手にいろいろな影響を及ぼしながら、そのネットワークの中で活躍できるというのは、最も近代的な競技ではないでしょうか。倉松 南米、アフリカはもちろんのこと、ヨーロッパも盛んですね。ドイツはイギリスと違ってクリケットはほとんど行わず、むしろサッカーが盛んです。しかし、イギリスではクリケットもするけれどもサッカーも盛んです。そういう意味ではおっしゃるように最もグローバルなスポーツだと思います。司会 グローバルな時代に東北学

院大学がどうあるべきかについて模索しているのですが、その意味では、ベガルタ仙台も同じ努力をしているのですね。

京極 県民一人一人が自分たちのチームだという意識を持てば早い時期にJ2からJ1に昇格できると思いますが、まだそこまでは至っていないようです。ですから自治体からの援助をいただいているわけです。市民球団としてできる限り早く自立しなければならないと思います。

佐々木 哲夫

司会 京極さんの生き方が、河北新報社や東北八ハンドレッドでの仕事に貫かれているということ、また、その原点に東北学院での学びがあったということをお伺いすることができ、本当にありがとうございました。

京極 確かに、私の行動の根本に、東北学院の建学の精神があったと言えます。

倉松 私たちにとってそも言葉は大きな励ましです。今後ともよろしく願いいたします。ありがとうございました。

COLUMN WELL

オープンキャンパス のご案内

オープンキャンパスを、つぎのとおり行います。

日時：平成12年8月3日

9:30(受付開始)～15:00

場所：泉キャンパス

(文・経済・法・教養学部)

多賀城キャンパス

(工学部)

内容：各学科専攻の紹介

入試情報の提供

施設・設備に見学

就職・資格取得・留学

の相談など

申込：事前の申込みの必要はありません。

詳しくは入試センター事務室へお問い合わせ下さい。

(TEL022-264-6455)

COLUMN WELL

国家公務員を目指して

公務員希望者のための説明会を、毎年人事院東北事務局の協力で実施していますが、今年度はこれに加えて、国家公務員 種各省庁業務合同説明会を4月20日に開催しました。内容は、法務省仙台法務局職員課長の基調講演や、人事院担当者からの申込手続

きの説明、また、各省庁の 種採用の若手職員から、業務内容についての説明です。参加省庁は17省庁、学生は約200名で、公務員受験の関心の高さが見られました。現在、7月2日の 種試験日にむけて、学生は最後の追い込みの時期となっています。

時代をみる

— 発見と創造 —

世界を感じる — 世界青年の船 —

平成11年度法学部卒業生の細外和子さんが、在学中の昨年9月9日から約50日間の日程で、総務庁青少年対策本部主催の『世界青年の船』に参加しました。この事業は、世界17カ国の青年約270名が乗船し、様々なプログラムや共同生活の中で相互の友好と理解を促進し、ま

た訪問国での国際交流活動を通じて参加者の国際的視野を広げ、国際協力における実践力と指導力の育成などを目的としています。細外さんは、「期間中の公用語が英語なのでとても大変でした。また、参加者たちは一人ひとり違うけれども、違いがあるからこそ新しい

ことを知ることができました」と感想を述べられました。また、最後に「一生に一回しか参加できない事業です。東北学院大学の学生には是非参加していただき、異文化を直接感じてほしいです」と話されました。

仙台湾海底遺跡の発見

河野幸夫工学部教授が、仙台湾で海底遺跡を発見しました。この海底遺跡は、昔から仙台の海岸地方に伝わる貞観（じょうがん）の大地震と津波によって、海底に没した島があるという言い伝えや逸話が残っていました。今回、三代実録の文献調査と海底潜水調査によって約千百年前の海底に没した伝説の島を見つけました。写真は大根大明神を祭ったと思われる大

きな祠と御神体と思われる石の一つ、そして、調査中の河野教授です。別府湾の瓜生（うりゅう）島など、海底に没した島の伝説は各地にあります。実際に発見されたのは日本で初めてのことです。

これらは、平成11年6月にNHKのニュースで数回、また、NHKの「歴史津波の謎を追う」で海底潜水調査をしている様子が放映されました。平成12年3月3日には、仙台市

泉消防署の主催で、「千百年前の大津波と松島沖の海底調査」と題してイズミティ21で講演会が開催され、河北新報にも掲載されました。



キャンパス内の環境対策



環境問題への取り組みが日常的となっている今日、教育機関においても、キャンパスをより良い環境にしようとの具体的な対策が講じられています。

本学においても、早い時期にキャンパス内に設置されていた焼却

炉を撤去し、煙による公害の防止に努めました。しかし、ゴミの量は増加傾向にあり、キャンパスを利用する1万数千人の学生や教職員の排出するゴミは予想をこえるものとなりました。そのため、ゴミ分別の協力をお願いしております。燃えるゴミ、燃えないゴミ、再資源となるゴミの分別収集を徹底させ、クリーンキャンパスの実現を目指しております。次第にその効果が現れてきております。また、事務室や研究室から排出されるコピー用紙、コンピュータ用紙、

上・中質紙、チラシ、新聞紙、ダンボールなどの古紙として回収業者に引き渡しています。大学で行う印刷には全て再生紙を利用しています。喫煙問題については、泉キャンパスと多賀城キャンパスで先行的に分煙を実施しておりました。この4月より土樋キャンパスにおいても、分煙を開始しました。

東北学院大学を構成するすべての者が、キャンパスの環境改善を考え、良い環境を維持するとの自覚を持ち、また、その通りに行動したいと考えております。

ゼミナールでの経験

朝倉 健一さん

経済学部経済学科4年
宮城県仙台育英学園高等学校卒業

朝倉さんにとって大学とは何ですか。

様々なことを研究できるのが大学であると考えました。先日早稲田大学の卒業式で、乙武洋匡さんが、「大学とは通過点」とコメントしていました。日本の学生は、高校や大学受験が終われば目的を達したという意識を強く持っているようです。私は、大学を通過点にしてさらに先を目指すという乙武さんの考えと一致しています。



朝倉さんが、本学を選んだ理由は何ですか。

地元の大学ということで選びました。大学では、自身で無から有を創り出し、様々な経験から得たものを有の部分に付け加えていかなければなりません。そんな意味で本学の演習（ゼミナール）は大切です。同じ分野を志す学生が集まり、高度な知識を交換することができ、また、様々な地域の出身の学生とのコミュニケーションを通して、人脈を培うことができます。

朝倉さんが履修している演習はどのような内容ですか。

指導教員は、国際経済論専攻の山本新一先生で、内容は、国際経済論と国際金融論を土台としたものです。演習には、1・2年生の基礎演習（基礎ゼミナール）と3・4年生の演習があり、私は、2年生の基礎演習から履修しています。現在は、国際経済における直接投資による経済発展について研究しています。近年の日本経済は、外国資本の注入による再生が注目されています。そうい

う面からも、国際経済論は重要であると考えます。

演習で得たものは何ですか。

一般の講義では、先生と学生との距離があり、意思疎通に欠けることがあります。しかし演習では、先生と学生との人格の交わりを通して学び合うことができます。本学は個人の尊厳を重視しており、学生の自発的なことに対して親身に応えてくれます。また、日本学生経済ゼミナール大会という全国大会に参加し、他大学の学生とのコミュニケーションをはかることも出来ました。

本学で学んだことを、今後どのように生かしていきたいですか。

人脈を生かしていきたいです。同じことを学んだ者同士ですから、知識の支えになってくれると思います。また、研究を深めるために、大学院に進学することも視野に入れています。日本から世界に様々なものを発信する役割を担っていきたいと思っています。

Interview

学生たちは、今

Interview

幅広い視野で行きたい

日野 聡子さん

教養学部教養学科人間科学専攻1年
宮城県泉高等学校卒業

大学に進学した動機は何ですか。また、本学を選んだ理由は何ですか。

様々な人と出会うことができ、また自分の自主性によって自由に世界を広げることができると考え進学しました。東北学院大学を選んだ理由の一つは、キリスト教の精神に基づいている大学であることです。私は、キリスト者推薦入試で入学しました。毎日行われている礼拝に参加しています。また、キリスト教の講義によって、学問的に知識を深めることができます。第二に、祖父、両親、兄が本学の出身で、常に私の身近にある大学であった点です。第三は、高校時代から心理学に興味があり、その分野について基礎から学びたいと考えたからです。

大学生活がスタートして、今までと変わった点がありますか。

今までは、団体行動が中心でしたが、大学では、自己の意思で行動しなければならず、戸惑うこともあります。また、学生数の多さに非常に驚きましたが、逆に様々な出身の学生と接することができるので充実しています。

泉キャンパスの印象はどうですか。

規模が大きく、施設が充実していて、多くの学生が集い、生き生きと過ごしているのを見て、環境がとても素晴らしいと思いました。中でも、建物の中にはエレベーターが完備され、学生の憩いの場のロビーも階毎にあり、生協や銀行のATM機、理髪店までもあり、とても驚いています。

授業で自分で選択しなければなりませんが、その点はいかがでしたか。

心理学などの興味のある授業を自由に履修できる反面、自己管理が重要だと



感じました。今年の履修単位は60単位で、その一つが、教養教育科目の心理学です。これは、心理学の入門ですが、2年生からは、心理実験実習や発達心理学などが履修できるので楽しみにしています。また、人間科学専攻の学生だけが取得できる、日本心理学会が認定する認定心理士の取得を考えています。物質的豊かさの反面、心の空洞化が現在問題となっています。その意味でも、さらに知識を深めていきたいと思っています。

『東北学院大学の三つの扉』

学長 倉松 功

新学期を迎え、キャンパスにも新鮮さが戻りました。
4月4日に行われた本学入学式の学長告辞を紹介します。

東北学院大学および大学院への入学を心から歓迎いたします。

本年から第三ミレニアム、第三の千年期に入りました。明年からは21世紀になりますが、大学(universitas)というのは、約800年前に出来たものです。大学とは何でしょうか、どんなところでしょうか。それを説明するとすれば、第一に大学とは社会・学ぶところということが出来ます。(learning community) 学ぶ、すなわち、調査・研究し、学ぶということが大学における中心的な仕事、本分(core-business)です。外国語の学びをはじめ、教養教育科目の学びから、専門教育科目の学びまで、古い歴史の研究から、先端技術の学びまで、学ぶことば

かりです。大学は学ぶ教員と学ぶ学生によって、存続し、発達し、新しく造り変えられてゆく社会です。

第二に大学における人間形成は、とりわけ友人、先輩との語り、クラブ活動におけるさまざまな交流や、友情によってなされることは申すまでもありません。それは、その後の人生の貴重な宝となるでしょう。

第三に大学は一人の人間としての社会的義務ないしは企業や地域社会さらに国家を越えて、人類社会にグローバルに適用する倫理を伝え、指し示し、証言する所でもあります。本学はこの使命を大学の伝統として大切にしてきました。ますますグローバル化する21世紀は、一人の人間としての価値が尊ばれ、

自由と平等の基本的権利が尊重される世界でなければなりません。その点が本学の精神的根拠であり、本学の目標である聖書の教えであります。

東北学院大学において、自由のびのびと精一杯自身を成長させてください。そのことを心から願っております。

以上が、これから新しい生活をスタートする新入生へのメッセージです。



COLUMN WELL

懐かしい出会いがそこにあるーホームカミングデーを開催ー

今年度より、新たにホームカミングデーを開催します。これは、本学の卒業生を招待し、卒業生相互の親睦や卒業生の現役学生との交流、また卒業生と大学の絆を深めることを目的としています。今年は、10月14日

に、本学土樋キャンパスを会場に行います。招待者は、卒業後20年目、30年目、40年目、50年目の方々と、今後も継続して開催します。詳細については、東北学院時報でお知らせするとともに、招待者の方々には、直接

ご案内します。当日は、パイプオルガンコンサートや公開授業、昼食会などを企画しており、大学祭も同日開催されますので、旧友との再会や現役学生の姿を通して、当時は振り返っていただきたいと思ひます。

文学研究科

大学院文学研究科の開かれた展望

ヨーロッパ文化史専攻から院生と教員の学術論文集『ヨーロッパ文化史研究』創刊号が刊行されました。倉松功学長の論文「エラスムスとルターの自由意思論争」、博士課程後期課程に在籍中の伊藤宏二氏の「近世ドイツ帝国におけるスウェーデン王国の法的地位」、須田明博氏の「13世紀アラゴン連合王国国王ハイメ一世のパレンシア征服」、および、鶴丹谷三千代氏の「初期キリスト教史における『主の祈り』の発展をめぐる問題」の4論文がその内容となっています。いずれも本格的学術論文で、関係学会で発表し、一定の評価を得ているものです。このような院生の活躍は、本学の大学院の学的信頼度を高めるといよいよ結果を招くものです。アジア文化史専攻からも近く出版されます。英語英文学専攻は、長い歴史を有し、すでに巻を重ねている論集を定期的に刊行しています。大事なことは、教員も院生も学会活動をしつつ論文の発表をすることです。そのことがなければ高い評価は得られません。学内の紀要の論文に加えて、関係学会誌に掲載されるよう院生のいっそうの努力を願います。

経済学研究科

『国際化』を实践して

本研究科博士課程後期課程で、中国・広州の石碑華南師範大学に留学中の長谷川貴広さんからの近況報告によりますと、中国政府公認の中国語検定試験で「外国人留学生として中国の大学での経済学など文科系専門科目を受講しうる中国語能力を有する」との認定を受けたそうです。これから本格的に中国経済についての専門的研究を進めるとともに、さらに中国語に磨きをかけたいと張り切っています。また、同じ博士課程後期課程に文部省国費留学生として在学中のバイスウェー、サイモン ジェームズさんは、在日5年目に入り、日英の外交文書や大蔵省資料を駆使して「日英同盟の金融的背景」の研究を進めています。先頃オーストラリア・パースに帰省の際、母校カーティン大学の研究会で松方正義文書など日本側資料を紹介したところ、これまで英語圏では知られていなかったこととして大いに賞賛されたそうです。両氏とも、ホームシックにかかる暇のないほど充実した日々を送り、所期の目的の達成に励んでおり、このような実を挙げることのできる若さはうらやましい限りです。



法学研究科

さらなる充実策を定める年に

本研究科では、昨年度、一般入試による隠棲名のほか、はじめて社会人院生名が修士の学位を取得しました。一般入試による院生の進路は、他大学大学院後期課程進学、一般企業就職などで、企業就職者からも本研究科での勉強が意義のあるものであったという感想が寄せられています。今年度は、前期課程に一般入試により4名、社会人入試により2名が入学しました。ほかに、前期課程に5名、後期課程に2名が在籍し、勉学と研究に励んでいます。本研究科では、今年度は、これまでの修了生や在籍者の声及び社会の要請に耳を傾けながら、質量ともにさらなる充実を求めて方策を練りたいと考えています。

工学研究科

科学技術教育と人類の幸せ

今年度、本研究科へ進学した学生は博士課程前期課程38名、同後期課程3名で、すでに在籍している学生と合わせると、総計81名になります。

この春から新しく各専攻に共通の講義として文化としての近代化学（前期2単位）を開講しています。講師は東京大学名誉教授の渡辺正雄先生で、我が国の科学技術思想史の創始者です。講義は講師との対話形式で、ビデオなども活用され、楽しい雰囲気の中で講義が繰り広げられています。今日の世界的規模の環境破壊、エネルギー資源の枯渇の問題など、科学技術の進歩が地球の破壊という問題を引き起こしています。これらの問題を科学技術史的に学ぶことは、工学技術者としてこれからの進むべき道を考える良い指針となるでしょう。

今年度の外国人客員教授にはベラルーシ国の国立科学アカデミーからオプトエレクトロニクスの権威者であるアイゴール・ジョージヴィッチ・ヴォイテンコ教授を招聘しました。グローバル化といいながら、欧米の大国にのみ目を向け、旧ソ連体制下にあった東欧諸国がいかに苦しんできたかについて何も分かっていないことを知りました。科学技術の研究成果を人類の幸せに役立てたいと願う我々にとって、思想や信仰の自由の大切さをヴォイテンコ教授の経験から学んでいます。

人間情報学研究科

社会人修了者の一言、二言、楽あれば苦あり

「キャリアを積んでも学問は積んでこなかったと、30歳を過ぎて社会人入試で二部に入学、現在まで6年間が経ちました。当初は、学ぶこと自体が楽しく過ぎました。2年生の頃から仕事に関係したことを学びたいと欲が出ました。振り返ると、学部は楽でしたが大学院は苦しかったの一言。溺れそうになりながら島を探して広い海を泳いでいたような気がしました。この度、修士をいただいたわけですから島にたどり着けたようです。出来れば無人島ではなくパラダイスがいいと思いついた島だったのですが、やはり自分で耕さないと食べ物はないのですね。でも無人島ではありませんでした。今後も研究生として研究を続けたいと思います。ここまで導いて下さった先生方、励まして下さったゼミの皆さま、勤務先の皆さまに感謝です」(看護婦、I.M.さん)



文学部

二部英文学科から英文学科夜間主コースへ

英文学科は、今年度から、昼夜開講制を採用する学生定員350名(昼間主コース300名、夜間主コース50名)の学科として、新たなスタートを切りました。これによって、二部英文学科は募集を停止し、英文学科夜間主コースが、英文学科の全4つの専門系(「英米文学系」「英語学系」「英語コミュニケーション系」「英語文化論系」)の一分野「英語文化論系」を構成することになりました。夜間主コースでは、1年次配当科目の英語文化論概説で同系への導入が行われ、長い歴史を通じて英語が作り出してきた文化が、英語使用の様々な局面にどのように反映されているのかを総合的に学びます。

昼夜開講制の特徴は、土樋キャンパスの開講時間を1校時から7校時までとし、月曜日から土曜日の6・7校時を夜間主コースの時間帯としたこと、そして5校時及び土曜日の1校時から5校時を昼間主コースと夜間主コースの共通時間帯としたことです。昼間主コース・夜間主コース共に同一学科であることの

メリットを十分に生かし、学生にとっては、科目履修上の自由度が増しました。共通時間帯は、主として資格関係科目等にあてられますので、夜間主コースの学生も、教育職員免許状(英語:中学校1種・高等学校1種)の他に、学芸員(博物館要員) 図書館司書、学校図書館司書教諭、社会教育主事の資格取得が可能になりました。二部英文学科からの良き伝統で、英文学科夜間主コースには、社会人も多く学びます。様々なバックグラウンドを持つ学生が切磋琢磨する学びの場です。



経済学部

学生の知的探究心を引き出す

今年度から昼夜開講制がスタートし、昼間主コースと夜間主コースからなる経済学部(経済学科・商学科)が登場しました。あらためて言うまでもなく、この制度によって、学生の科目履修条件が大幅に緩和されています。特に夜間主コースでは、必修科目以外は無制限に昼間主コースの科目を履修できます。この制度を、学生たちが自分のライフスタイルにあわせて大いに活用してくれることを期待しているところです。

また本学部では、この制度の実施に際してカリキュラムを刷新しました。新しいカリキュラムには、学生たちの知的探求心を引き出すような様々な工夫を施しました。一例をあげますと、経済学科では、少人数教育を重視した「総合演習」(通年4単位)

を1年に配置し必修としました。この科目では大学とはどのようなところなのか、大学での勉強とはどのようなものなのか、資料はどのように調べるか、図書館の利用方法は、経済学とは、といった点について、教員が丁寧に指導します。また、様々なテーマについて読み、書き、議論し、発表する能力を鍛えることも目標にしています。このようにして、従来のマスプロ教育の弊害を取り除き、少しでも学生のやる気を引き出そうというわけです。なお、商学科でも、必修ではありませんが、同様のねらいの下に「基礎演習」(半期2単位)を1年に配置しています。

このような試みを軌道に乗せるべく、現在、教員が一丸となって頑張っているところです。

法学部の新時代—女性教員が3倍に—

今年度、法学部には、「地方自治論」と「憲法」をそれぞれ担当する2名の女性教員が着任しました。「民法」の鈴木教授とあわせて、法学部の女性教員は一挙に3倍に増えたのです。現在の社会の男女比率や男女平等を考えれば、このようなことをわざわざ取り上げることはおかしいことかもしれません。しかし、他大学の法学部では、女性教員数は非常に少なく、本学の法学部でも、学生の中の女性の割合が多

くなってきているのに、教員の中で女性は1人だけという状態が長く続いていました。これは、裁判官や弁護士などの法律の実務に携わる職業と比較しても少ない数字です。そのため、これまでは、「法学部のスタッフ=男性の世界」という、あやまったイメージがあったかもしれません。2000年度の本学法学部は、そのようなイメージを払拭し、新しいカリキュラムとともに21世紀に向けてスタートします。

クリーンな環境で学ぶ学生たち

本学部には今春、554名の新生を迎え、総勢2,235名の学部学生が21世紀を担う工学技術者をめざし、新年度の勉学をスタートしています。

本学は創設以来「英語に強い東北学院」という伝統があります。本学部もこの伝統の実を揚げるために今年から英語の教育法を変え、グレード制を導入してクラスを細分化しました。実用的な工業英語を身につけた多くの学生たちの活躍を期待しています。

最近、就職試験の実施時期が早まっており、今年のご父母の方々への就職説明会をサル月15日に開催しましたが、早くも内定をもらった学生も現れています。

多賀城キャンパスでは勉学環境のクリーン化を進めています。本学科では環境工学の一環として環境

電磁障害の軽減、環境汚染対策、振動制御や騒音防止などを各学科における重要な研究課題として取り上げています。すでに、ダイオキシン発生の源となる焼却炉は撤去しましたが、身近なタバコの煙による環境汚染を見逃すわけにはいきません。このため、学生総会の決議によりキャンパス内の分煙化が4月より実現しました。この学生たちの決断を誇らしく思います。小さなことかもしれませんが、工学技術者の倫理観でもあります。本学科の卒業生は社会からも好感をもって受け入れられるでしょう。

毎年市民から好評を博しています「大学開放講座」は5月24日から11月1日まで、毎週水曜日の夕方に実施されることになりました。

言語科学専攻からの発信

多言語に開かれた外国語学科の感を呈する言語科学専攻は、その充実度の点で東北の私学では珍しいものとなっています。英語、米語はもちろん、ドイツ語、フランス語、中国語のスタッフは充実し、またそれぞれのネイティブの専任講師がおります。学生は1年次から一貫したカリキュラムのもと少人数の演習様式で語学を鍛えられます。

またアメリカ、イギリス、ドイツ、中国、韓国の大学と提携交流をしているため、学生は海外留学の機



会が豊富に幅広く与えられ単なるています。日本語教師資格認定も可能ですが、単なる外国語学科と異なる点は、言語への習熟に伴って言語理論や比較文化論、さらには芸術表現や文化理論への探求など深みと奥行きを兼ね備えていることです。

特色ある研究

研究紹介



ニューラルネットワークによるデータ自動分割

経済学部助教授 菊地登志子

情報化社会がもたらす大漁のデータから、役に立つ知識を抽出するデータマイニングという研究分野があります。このデータマイニングの手法としてニューラルネットワーク・モデルが用いられていますが、有用な知識を自動的かつ効率的に抽出するためには、まだ多くの問題点が解決されなければなりません。このような問題に対して、新しいアルゴリズムの提案や、効率的に行うための評価基準を提案し、財務データや画像データを対象にした応用を試みています。

危険負担の比較法的研究

法学部教授 安藤次男

私の専門は民法と英米私法です。これまでの研究テーマは 契約法における履行不能の効果、リースや割賦販売などの販売金融制度です。発表した論文の大半はイギリスやアメリカの法制度との比較研究であり、民法プロパーの範囲を越えて保険の実務や税法の観点から考察を行っております。特に、アメリカ商法典の立法過程と判例を検討して書いた送付債務ににおける危険負担論はオリジナルなものと思っています。

スポーツパフォーマンスの科学的研究

教養学部教授 前田明伸

スポーツ選手の競技力を決定する要因として、技術・体力・精神力が大きく関与しています。体力面に関しては、運動時の生理的機能を検討することがきわめて重要になるわけです。私は、持久的運動に関心が高く、最大酸素摂取量、無酸素性作業閾値、酸素摂取量一歩速度関係を測定し競技力の優劣を検討しています。また環境制御室を利用し、高・低温環境下での呼吸循環機能への影響の差異を明らかにし、水分摂取の重要性を検討しているところです。

COLUMN WELL

平成12年度科学研究費補助金の内定状況(本学関係分)

日本学術振興会と文部省が取り扱う科学研究費補助金の平成12年度内定通知がありました。

科学研究費補助金とは、わが国の学術研究を振興させるために、人文・社会科学から自然科学までのあらゆる分野における優れた研究を助成す

るもので、研究者の競争的原理に基づく基幹的な助成金となっております。研究の種類やタイプに応じて種目が分かれ、配分金額や研究年数などにも違いがあります。

平成12年度の本学関係分としては、21件、31,900,000円でした。

科学研究費補助金は、今日の大学の研究の質を示す基準として採択件数や配分金額などに注目が集まっております。今後も一層、本学教員の研究活動の充実に期待していただきたいと思っております。

平澤大学校(韓国)との交流

平澤大学校は、本学にとってアジアの最初の姉妹校であり、しかも創立の経緯を同じくするキリスト教大学です。1998年5月に国際教育・研究交流協定を、さらに本年1月には学術交流協定と学生交換協定を締結し、現在具体的な交流について話し合いを行っています。本年7月8日に開催する在学生父母のための本学後援会総会では、平澤大学校芸術学部音楽科から9名の教授をお迎えして、特別演奏会を開催します。アジアの最も近い国、韓国からの来賓を心から歓迎し、専門家による優れた演奏に耳を傾けたいと思います。

平澤大学校 趙基興総長からのメッセージ



1998年5月25日に姉妹関係を結んで後、平澤大学校と東北学院大学の国際協力関係は、非常に特別かつ重要なものとして発展しています。何よりも両校は、その出発点と目標から、特別な関係を持ってきました。1886年にキリスト教伝道者の養成のために仙台神学校として開校されて以来、

1948年に総合大学に昇格した東北学院大学と、1912年にピアソン記念聖書学院として開校以来、1992年にそうごうに昇格した平澤大学校は、聖書に基づく教育を通じて、教会及び社会に指導者を養成しようという共通点を持っています。

両校は、校内のチャペル、聖書研究プログラム、各種キリスト教関連奨学制度、等、同一の遺産を受け継いでおり、地域住民との連携による社会教育プログラム開発、そして地元学生の受け入れを通して、地域社会の発展とともに成長する学校というキャッチフレーズなどで、共通した未来へのビジョンを共有しています。

1998年7月27日から8月1日まで行われた本校教職員の東北学院大学での研修プログラムは、両校が今後、ど

れだけ広範囲の領域で国際協力関係を進めることができるのかを学ぶことができた良い機会でした。さらに1998年10月14日に本校を訪問された倉松功学長の「新しい世紀におけるキリスト教大学の意義」という講演は、両校がこれからの未来に対する座標を設定するのに、非常に有意義なものでした。

伝統と現代的な施設の調和、そして効率的な運営管理を通じて、東北地域随一の私立大学に成長した東北学院大学と、1999年度韓国大学総合評価で優秀大学に選ばれた平澤大学校の間に、共通の信仰遺産と未来への夢を分かち合える交流がさらに拡大することを期待しています。



国際交流協定校

Ursinus College アーサイナス大学(アメリカ)
Franklin and Marshall College フランクリン・アンド・マーシャル大学(アメリカ)
Fachhochschule Wiesbaden ヴィースバーデン大学(ドイツ)
Pyongtaek University 平澤大学校(韓国)
Nankai University 南開大学(中国)
University of Durham ダラム大学(ギリス)
University of Ulster アルスター大学(ギリス)

問い合わせ先 国際交流センター事務室
TEL 022-264-6425/6404
E-mail: "IC0@tscc.tohoku-gakuin.ac.jp"

COLUMN WELL

フランス政府留学生に本学卒業生2名が合格

フランス教育文化省主催で例年開かれている夏期講習は、世界各国の若い研修生がフランスの各研修地において、2週間にわたる課外授業を通じて、フランス文化を体験することを目的に行われます。日本からの参加者枠は35人です。今回、フランス大使館文化

部から学生の推薦依頼があり、本学卒業生の小島竜哉さん(1998年度教養学部卒、現在東北大学仏文修士2年)と宮本直規さん(1999年度教養学部卒、現在東北大学仏文修士1年)が参加することになりました。研修地は、小島さんがエクス・アン・プロヴァンス、

宮本さんが、マシフ・サントラル(中央山塊)にあるグルドンです。パリまでの往復の交通費は自己負担ですが、それ以外はすべてフランス政府が負担します。来年からは本学の在学生も推薦し、より若いうちにフランスを体験できるようにと考えています。

音楽を通じたキリスト教理解

— 宗教音楽研究所 —

本研究所は、キリスト教音楽の研究並びに発表を行い、音楽を通じて建学の精神を高揚することを目的に、1978年12月に発足しました。

本年度の主な活動は、6月26日に本学土樋キャンパスのラーハウザー記念東北学院礼拝堂において、「宗教音楽の夕べ」を開催します。この演奏会は、第1部が本学合唱団によるバッハ作曲カンタータ第94番「われいかに世のことを問わん」の合唱、第2部は明治学院大学オルガニストの長谷川美保氏によるオルガン独奏です。9月6日には、本学泉キャンパス礼拝堂において、フランスを代表する巨匠で、ヴェルサイユ宮殿オルガニストのミシャル・シャピユイ氏によるパイプオルガン演奏会を開催します。また、11月中旬に土樋キャンパスにおいて、本研究所所員で本学オルガニストの伊澤長俊教養学部教授によるパイプオルガン演奏会を計画しています。公開講座「パイプオルガン演奏法」も本年度で第5回を迎え、本学学生や一般市民を対象として演奏技術指導を中心に行っております。

問い合わせ先 宗教音楽研究所
TEL 022-375-1185



地球的視野に立って地域社会を考える

— 法学政治学研究所 —



本研究所は、法学・政治学関係の組織的調査研究とその成果の社会への還元を目的として、1992年に設立されました。

毎年発行される「研究所紀要」には、研究所員の研究成果が、論説や研究ノートなどの形で発表されます。また、著名な研究者を全国各地から講師として招き開かれる「学術講演会」は、学内外で高い評価を得ています。「公開講座」は、幅広い年齢層、様々な職業の方々が多数受講されており、貴重な生涯学習の場となっています。

本研究所は研究機関ですが、可能な限り開かれた研究所であることを願っています。研究所が主催する学術講演会や公開講座などの各種行事には、学生のみならず一般市民の方々にもふるって参加していただきたいと思っています。今年の学術講演会は、桜美林大学大学院教授(元朝日新聞編集委員)の石川眞澄氏を招き、『日本政治の現在を観る』という演題で5月25日に開催されました。研究所員による公開講座は『市民生活と法』という統一テーマで11月に予定されています。

問い合わせ先 法学政治学研究所(法学研究資料室内)
TEL 022-264-6404

COLUMN WELL

様々な思い出を胸に

— 卒業式 —

3月23日に平成11年度卒業式が行われました。3,055名の卒業生は、本学で学んだキリスト教に基づく建学の精神を胸に、新しい世界へと旅立ちました。



深い知識と教養を

— 入学式 —

4月4日に平成12年度入学式が行われました。新入生全員に聖書と賛美歌が贈呈されました。聖書と賛美歌を受け取ることによって、キリスト教大学である東北学院大学の一員となることを自覚します。



図書館より Library Info.

主を畏れることは、知恵の初め



島崎藤村著『若菜集』初版(明治30〔1897〕年)

「日本近代詩」の出発とも呼ぶ島崎藤村の『若菜集』が書かれるのは、藤村が、東北学院普通科(現、中高校)の教員として在職中(明治29年9月～30年6月、当時の一学年期)のことでした。初版の発行は明治30年8月、春陽堂からでした。その中には「心の宿の宮城野よ」で知られる、『ウィルヘルム・マイスターの修業時代』の「ミニヨンと豎琴弾きの老人」を下敷にした有名な「草枕」の詩があります。この詩集『若菜集』が、その詩集題で発行されるのは、第7版(明治35年10月)までで、以後、藤村は、それまでの『若菜集』『一葉舟』『夏草』『落梅集』の四詩集を合本し、明治37年9月『藤村詩集』として、同じく春陽堂から発行。これが文庫本として、新潮・角川・岩波などで現代まで続いている『藤村詩集』あるいは『藤村詩抄』と言われるものです。

藤村の東北学院時代の回想記でもある『早春』・「仙台雑詩」(昭和11年4月)を読むとそこに「仙台の一年ほど本のよく読めた時もめずらしい。ちやうど東北学院の図書館はこの私を待ち受けてみてくれたやうなものであつた」とあり、そこには幾つかの書籍の名があげられています。その中に英訳本のゲーテ『ウィルヘルム・マイステル』があります。ダンテ、シェイクスピア、ゲーテ全集(5巻本)、英国文人叢書(38巻)、ラスキン全集(12巻)、カーライル全集(10巻)、英国ロマン派詩人たちの詩集などは、藤村が直接手にした書籍でありました。これがある時は『若菜集』作品に、ある時は学内文学会雑誌「東北文学」、労働会雑誌「芙蓉峰」の文章になって行ったのです。

文学のみならず、百科事典(『エンサイクロペディア・ブリタニカ』30巻ほか)、辞書(『ウェブスター』)、聖書学、哲学、心理学、社会科学、自然科学(ダーウィンほか)など、当時の学術全般に及ぶ東北学院図書館(ケルカー記念図書館・明治24年9月設置)は、正に私達の身近にある「明治文化の宝庫と呼べる素晴らしい生きた財産なのです。

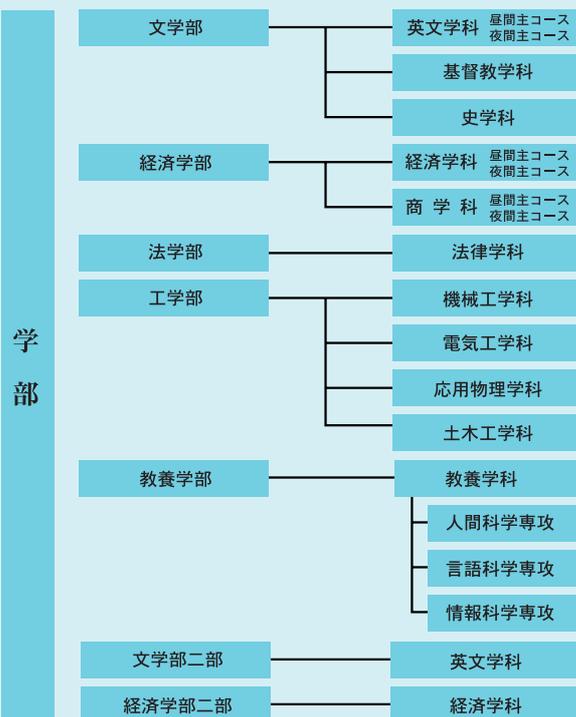
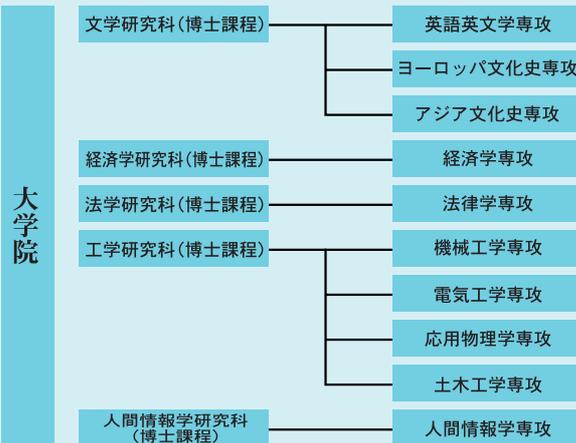
問い合わせ先 図書館事務室
TEL 022-264-6491

オーディオ・ビジュアルセンター 公開行事のご案内

オーディオ・ビジュアルセンターでは、本年度公開学術講演会に、アメリカのオハイオ州立大学準教授で、現在は千葉県文部省メディア教育開発センターで研究員として活躍のチャールズ・クイン氏をお招きし、『異文化としての古代語』と題しての講演を予定しています。また、本学学生を対象に夏休みと春休みの2回それぞれ3週間にわたり開催している『英会話集中訓練コース』に、一般の方々をご参加いただけるように検討しています。

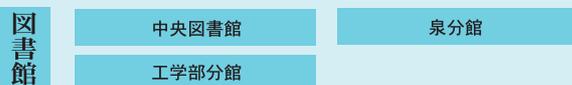
大学組織

(平成12年度)

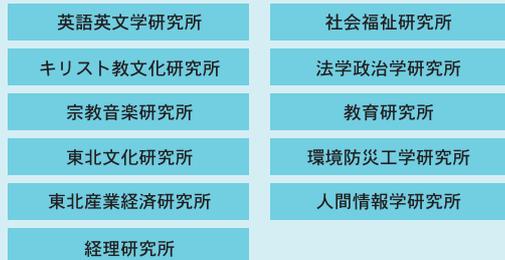


※文学部二部および経済学部二部は平成12年度より学生募集停止。

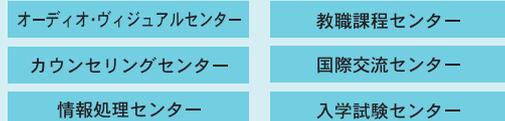
宗教部



研究所



センター





就職部より

Placement Info.

将来を考える

本年度の企業の採用活動は、例年の日程よりさらに早まり、春休みの2月から始まりました。4年生になる以前に実質的な会社説明会の開催やその出席者を対象としての個別面接など、本格的な選考段階に入りました。4月中旬から5月上旬にかけて第一のピークをむかえ、内定も出されています。企業側は、より目的意識の高い、新たな発想と意欲的な行動のできる学生を強く求めています。第一のステップから第二のステップへと考えている学生には、どんなにハードルが高くても、もう一度自分を見つめ直し、果敢に挑戦してほしいと切に希望しています就職部では窓口を広くして来談に応じています。

一方、現3年生を対象として、10月から始まる就職ガイダンスのミニ版として、6月8日に、就職活動への準備のための「ミニガイダンス」を開催しました。すでに進路を考えている学生もいると思いますが、自分の将来(人生・就職)について再度真剣に考えてほしいと願うからであります。多くの3年生の出席が、本学学生の意識の高さの表れとなりました。

問い合わせ先 就職課
TEL022-264-6484



入試センターより

Admissions Info.

来年度の入試日程が決まる

平成13年度の入試日程がつぎのとおり決まりました。

一般入試(前期日程)

- 2月1日 経済(昼・夜)、機械工、応用物理
- 2日 商(昼・夜)、人間科学、電気工、土木工
- 3日 法律、言語科学、英文(夜)
- 4日 英文(昼)、キリスト教、史、情報科学

一般入試(後期日程)

- 3月7日 全学科・専攻(キリスト教学科を含む)
- 推薦入試(キリスト者・学業・資格取得・スポーツ)
- 11月22日 全学科・専攻

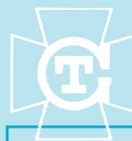
AO入試(第二次選抜の実施日)

第 期 11月22日 第 期 12月19日

社会人特別入試

- A日程 11月22日 B日程 3月7日
- 編入学試験(A=一般・推薦、B=一般・社会人)
- A日程 10月12日 B日程 3月7日

問い合わせ先 入試センター事務室
TEL022-264-6455



学校法人 東北学院

東北学院大学

土樋キャンパス

大学院：文学研究科、経済学研究科、法学研究科
学 部：文学部・経済学部・法学部(各3・4年)
文学部二部、経済学部二部
〒980-8511 仙台市青葉区土樋一丁目3番1号
TEL022-264-6421 FAX022-264-3030

多賀城キャンパス

大学院：工学研究科
学 部：工学部
〒985-8537 多賀城市中央一丁目13番1号
TEL022-368-1116 FAX022-368-7070

泉キャンパス

大学院：人間情報学研究科
学 部：文学部・経済学部・法学部(各1・2年)
教養学部
〒981-3193 仙台市泉区天神沢二丁目1番1号
TEL022-375-1121 FAX022-375-4040

東北学院中学・高等学校

〒980-0811 仙台市青葉区一番町一丁目9番1号
TEL022-227-1221(代) FAX022-227-6302

東北学院榴ヶ岡高等学校

〒981-3193 仙台市泉区天神沢二丁目1番1号
TEL022-372-6611(代) FAX022-375-6966

東北学院幼稚園

〒985-0862 多賀城市高崎三丁目7番7号
TEL022-368-8600(代) FAX022-309-2655



ウーラノス

東北学院大学 広報誌 Vol.4

東北学院大学設置50周年記念事業
大学広報誌発行小委員会

委員長	総務担当副学長	関根 正行
副委員長	総務部長	飯土井公洋
編集長	宗教部長	佐々木哲夫
委員	文学部教授	遠藤 健一
	経済学部教授	小笠原 裕
	法学部教授	斎藤 誠
	工学部教授	星宮 務
	教養学部教授	片瀬 一男
	総務部次長	高橋 征士
	総務部調査企画課長	石井 勝雄
	総務部総務課長補佐	桔梗 元子
	総務部調査企画課	伊藤 寿隆
	総務部調査企画課	石上 貴繁

東北学院大学広報誌『OURANOS』(ウーラノス)に関するご意見・ご質問をお寄せください。今後とも皆様のご期待に沿えますよう、編集いたします。なお発行日は、6月・10月・2月となっております。

発行日 平成12(2000)年6月20日

編集 東北学院大学
設置50周年記念事業
大学広報誌発行小委員会

発行 東北学院大学
設置50周年記念事業
実施委員会

〒980-8511
仙台市青葉区土樋一丁目3番1号
TEL022-264-6424 FAX022-264-3030
<http://www.tohoku-gakuin.ac.jp/>

印刷 (株)エイエイピー